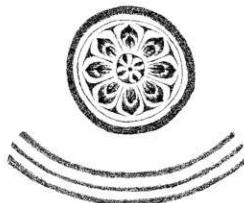


宮城県仙台市

郡山遺跡 35

— 平成26年度発掘調査概報 —



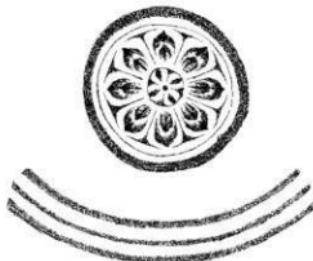
2015.3

仙台市教育委員会

宮城県仙台市

郡山遺跡 35

— 平成26年度発掘調査概報 —



2015.3

仙台市教育委員会

序 文

日頃より仙台市の文化財行政に対しご理解、ご協力を賜り感謝申し上げます。市内には現在約780ヵ所の遺跡が確認されております。このような埋蔵文化財はその時代ごとにその地に住んだ人々の痕跡を伝えるものであり、時代のうつり変りにより消滅の恐れにさらされています。当委員会としましては皆様のご理解とご協力を得て、重要な文化財を保存し、後世に伝えるように努めているところであります。

ここにご報告いたします郡山遺跡は、地方官衙としてはわが国でも最古段階の重要な遺跡です。幻の城柵として一端を現した昭和54年以來、継続的に実施してまいりました発掘調査により、古代の文献に記録のない“幻の城柵”はまさに“甦る城柵”として私たちの前に明らかになってきました。当時は辺境とされていた当地方の歴史観を一変した最古の地方官衙・郡山遺跡の発見は、日本の考古学・古代史学界に大きな影響を巻き起こしたものと確信しております。

平成23年3月11日に発生した東日本大震災により、市内の各所で大きな被害が出ました。早期の復旧・復興が望まれる中、復興事業に先立って発掘調査の必要性のある場所が増加傾向にあるという現状があります。

このような状況の中でも、発掘調査の継続が出来ましたのも遺跡の究明にご助言をいただいた先駆の諸氏や、市民の皆様のご協力があったからだと感じております。早期に復旧・復興がはかられ、市民生活の回復がなされるとともに、これまでの調査成果が遺跡保護や整備、そして私達の生活文化に寄与することを願ってやみません。今後とも皆様のご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

平成27年3月

仙台市教育委員会

教育長 上田 昌孝

例 言

1. 本書は国庫補助事業による市内遺跡調査のうち、郡山遺跡内の個人住宅建築工事に関連した発掘調査の調査報告書である。
2. 本概報は調査速報を目的としている。執筆は以下のように分担した。

第1章 石山智之 第2章 及川謙作
第3章 石山智之
3. 本書の作成に関わる作業は、以下のように分担し、編集は及川謙作が行った。

遺構記表作成：及川謙作・石山智之
図版作成：及川謙作
4. 本書に係わる出土遺物、実測図、写真などの資料は仙台市教育委員会が保管している。

凡 例

1. 断面図の標高値は、海拔高度を示している。但し、海拔高度及び座標系は、平成23年（2011）3月11日の東日本大震災以前の値を使用している。
2. 第2章の図中に示した座標系は、郡山遺跡内に昭和56年に設定し、平成8年度に改訂した任意の座標系（X=0、Y=0を通る磁北線（1984年頃の偏角で、真北から $6^{\circ}44'7''$ 西傾））で表記している。
3. 文中の方位は、真北を基準としている。また、図中の方位に「☆」を付したものは真北を示し、これ以外の方位は座標系に沿った磁北を示している。
4. 遺構の略称は次のとおりである。遺構番号はこれまで調査された調査区を通しての番号順である。但し、ピットは調査区毎となっている。

SA：柱列・材木列跡 SB：掘立柱建物跡 SD：溝跡 SI：竪穴住居跡 SK：土坑
SX：性格不明遺構 P：ピット・柱穴
5. 遺物の略号は次のとおりである。

A：縄文土器 B：弥生土器 C：土師器（ロクロ不使用） D：土師器（ロクロ使用）
E：須恵器 F：丸瓦・軒丸瓦 G：平瓦・軒平瓦 K：礫石器 N：鉄製品
6. 土師器実測図における網掛けは、黒色処理が施されていることを示している。その他の付着物や痕跡は図上に表記している。
7. 遺物観察表中の法量で（ ）が付いた数字は、図上で復元した推定値である。
8. 土色については「新版標準土色帖」（小山・竹原1989）を使用した。
9. 第1図は、1:10000「仙台駅」「長町」「西多賀」を使用し作成した。

目 次

第1章 はじめに

I. 調査体制	1
II. 調査計画と実績	
1. 調査計画	1
2. 調査実績	1

第2章 郡山遺跡

I. 第251次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	4
2. 検出遺構と出土遺物	4
3. まとめ	4
II. 第252次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	6
2. 検出遺構と出土遺物	6
3. まとめ	7
III. 第254次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	9
2. 検出遺構と出土遺物	9
3. まとめ	9
IV. 第255次発掘調査	
1. 調査経過と調査方法	11
2. 検出遺構と出土遺物	11
3. まとめ	11
第3章 調査成果の普及と関連活動	13

第1章 はじめに

I. 調査体制

調査主体 仙台市教育委員会

調査担当 文化財課長 吉岡恭平

整備活用係 係長 長島栄一、主任 斎藤克巳、主事 及川謙作

文化財教諭 石山智之、伊藤翔太、橋本勇人

専門員 木村浩二

調査調整係 係長 斎野裕彦、主査 平間亮輔、主任 村上とよ子、鈴木隆

主事 小泉博明、黒田智章、小林航

文化財教諭 千葉悟、早坂純一、千葉靖彦、小山紘明

専門員 佐藤洋

発掘調査・整理作業を適正に実施するため「郡山遺跡・陸奥国分寺跡等調査指導委員会」を設置し、指導・助言を受けていた。指導委員会委員更新の必要性があるが、東日本大震災からの復旧に伴う発掘調査を優先せざるを得ない状況であったことから、今年度はやむなく休会となっている。平成27年度以降、郡山遺跡と陸奥国分寺跡等の遺跡内での発掘調査の状況を踏まえて、再開の調整を図っていくこととする。

II. 調査計画と実績

1. 調査計画

平成26年度に計画した本書掲載の調査は、国庫補助事業である「市内遺跡発掘調査」の一部として計画し、郡山遺跡を対象とした。

郡山遺跡では第5次5ヶ年計画終了後に平成17年度から補足調査を実施してきたが、東日本大震災からの早期復旧・復興を考慮し、昨年度に引き続き個人住宅建築及び震災復興に関わる調査に特化して事業を計画した。

発掘調査総経費は23,056,000円、国庫補助金額8,374,000円の予算で計画し、当初は郡山遺跡の個人住宅対応に9,157,800円、「仙台平野の遺跡群」として郡山遺跡以外の市域全体の個人住宅対応に7,592,000円とした。これによって本書の掲載に関わる発掘調査の実施計画を以下のように立案した。

調査次数	調査地区	調査予定期積	調査予定期間	調査原因
郡山遺跡	官衙内部など10箇所	700㎡	平成26年4月～平成27年3月	個人住宅建築

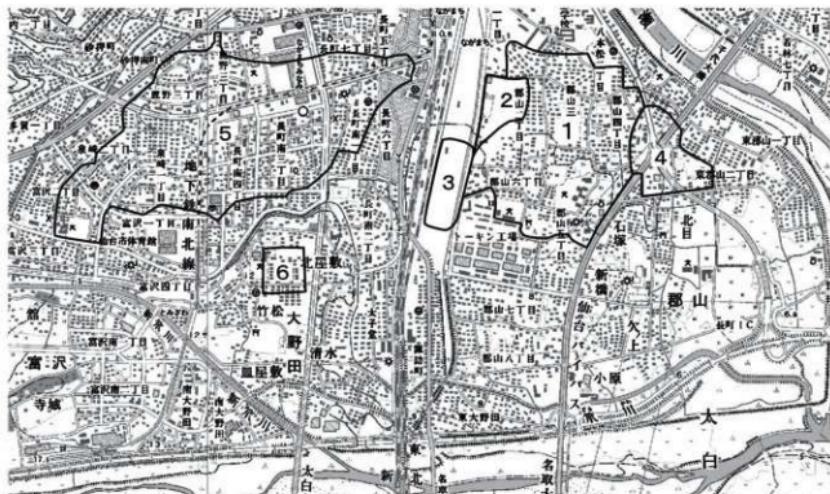
表1 平成26年度発掘調査計画

2. 調査実績

郡山遺跡については、平成26年度は6箇所の調査を実施した。そのうち本報告書では、国庫補助事業の対象となる個人住宅建築に関わる調査の251次、252次、254次、255次の報告をする。なお、平成25年度中に実施したものの年度末であったため、「郡山遺跡34—平成25年度発掘調査概報一」内の「平成25年度発掘調査実績」に掲載できなかった250次については「表2 平成26年度発掘調査実績」に掲載したが、この報告については次年度以降に刊行される『仙台市震災復興関係遺跡発掘調査報告』に所収される予定である。また、平成26年度中に実施した第256次調査報告の詳細は次年度の報告とする。

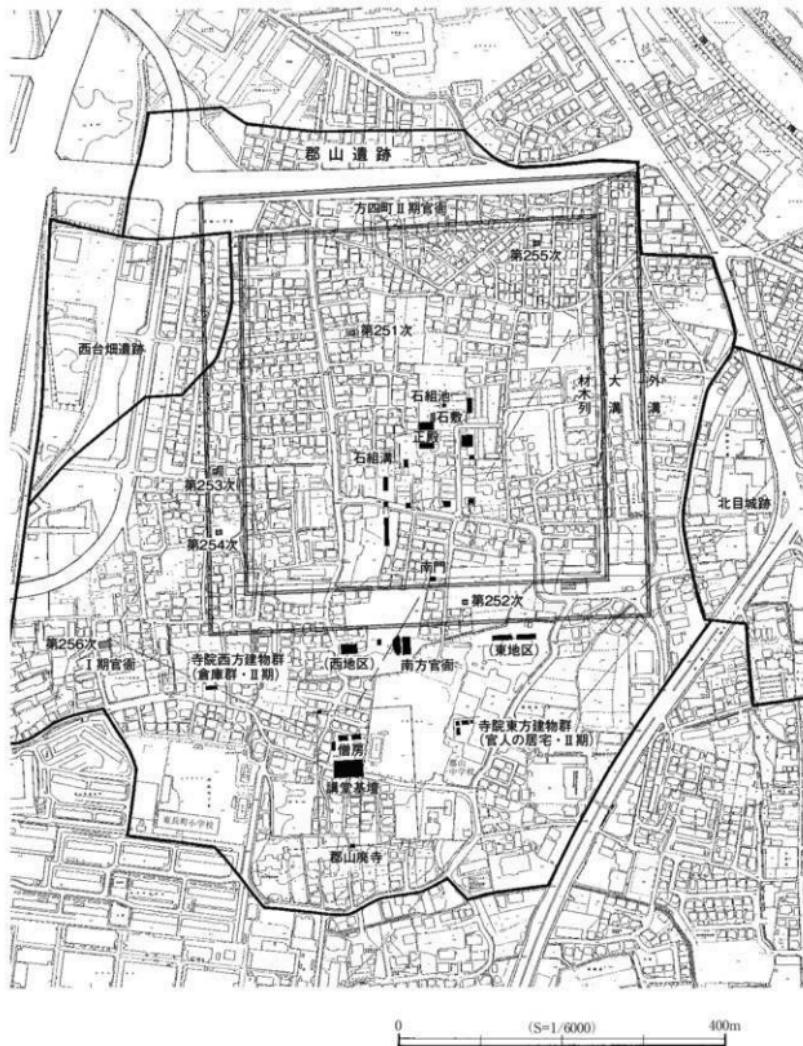
遺跡名・調査次数	調査地区	調査面積	調査期間	調査原因	対応
郡山道路 第250次	II期官衙南部	15m ²	平成26年2月18日～19日	個人住宅建築	震災復興民間文化財発掘調査 助成事業
郡山道路 第251次	II期官衙北西部	15.8m ²	平成26年4月3日	個人住宅建築	郡山道路ほか調査
郡山道路 第252次	II期官衙南部	16m ²	平成26年4月10日	個人住宅建築	郡山道路ほか調査
郡山道路 第253次	II期官衙西部	10.5m ²	平成26年5月12日	建壳住宅建築	開発に伴う事前調査
郡山道路 第254次	II期官衙南西部	12m ²	平成26年8月4日	個人住宅建築	郡山道路ほか調査
郡山道路 第255次	II期官衙東北部	15m ²	平成26年12月3日	個人住宅建築	郡山道路ほか調査
郡山道路 第256次	郡山道路西部	21.3m ²	平成27年3月3日～12日	個人住宅建築	郡山道路ほか調査

表2 平成26年度発掘調査実績（一部前年度実績を含む）



1. 郡山道路 2. 西台畠道路 3. 長町駅東道路 4. 北目城跡 5. 富沢道路 6. 大野田官衙道路

第1図 調査遺跡位置図



第2章 郡山遺跡

I. 第251次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第251次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。平成26年1月7日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成26年1月8日付けH25教生文第123-386号で回答)に基づき実施した。

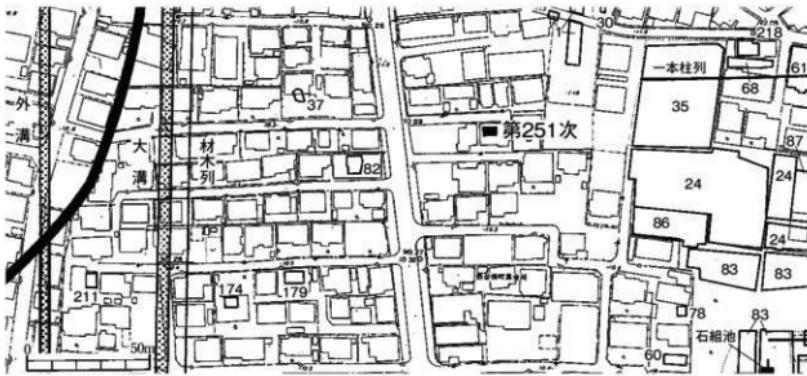
調査は平成26年4月3日に着手した。今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の北西側に位置し、昭和57年度に調査が行われた第24次調査区等の西側にあたる。調査地点周辺は、郡山Ⅰ期官衙の遺構群が多数見つかっている範囲である(第2・4図)。

今回の調査地点では、重機により盛土および基本層第1層(近現代の水田耕作層)を掘り下げたが、当初の想定よりも盛土が非常に厚く堆積していたことが確認された。

その後、調査区配置図(S=1/40)と、調査区断面図(S=1/20)を作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山遺跡の座標(No.27)から基準点の移設を行った。同日に埋め戻しを行い、調査を終了した。



第3図 第251次調査区配置図 (S=1/300)



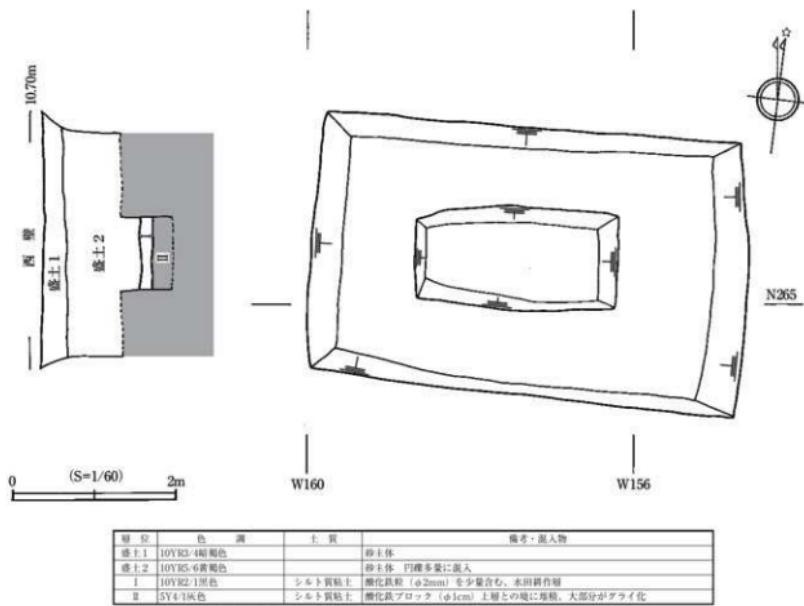
第4図 第251次調査区位置図 (S=1/2000)

2. 検出遺構と検出遺物

今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかった。

3. まとめ

前述したように今回の調査地点は、郡山Ⅰ期官衙の遺構群が多数見つかっている範囲で、周囲の調査区からは堅



第5図 第251次調査区 平面図・西壁断面図 ($S=1/60$)

穴住居跡や工房跡と考えられる竪穴建物跡などが多数検出されている。よって今回の調査区でも同様の遺構が検出されることが予想されたが、今回の調査地点では、盛土が厚く堆積していることが確認され、その下層から検出された基本層からは遺構、遺物は確認されなかった。このことから当調査区は他の調査地点と比べ古代の遺構検出面の上面が約50cm削平されているものと推定される。



1. 第251次調査区全景（東から）



2. 調査区西壁土層断面（東から）

写真図版1 第251次調査区

II. 第252次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

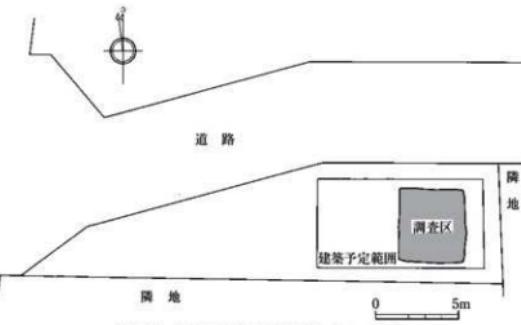
第252次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。調査は、平成26年3月10日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成26年3月13日付けH25教生文第123-452号で回答)に基づき実施した。今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙南側の外郭施設と外溝の間に位置し、平成23年度に調査が行われた第209次調査区の南側に隣接する(第2・7図)。

調査は、平成26年4月10日に着手し

た。調査区は事業予定地内に東西4.0m×南北4.0mの規模で設定し、重機により盛土および基本層第1層(近現代の水田耕作層)を掘り下げた。基本層第2層上面で、遺構検出手作業を行い、土坑2基とピット16基を検出した。その後、調査区配置図(S=1/300)と、調査区断面図(S=1/20)を作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山遺跡の座標(No.25)から、トランシットを用いて基準点の移設を行った。同日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

2. 検出遺構と出土遺物

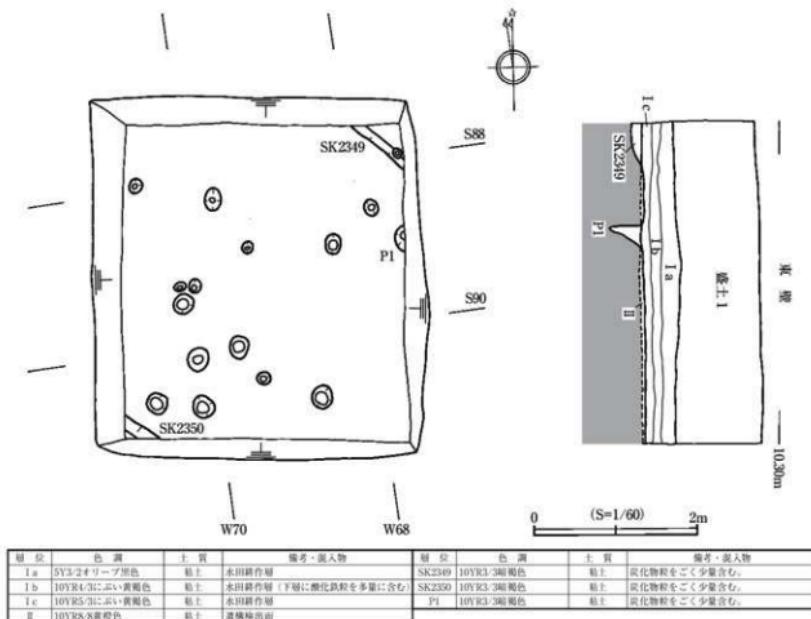
今回の調査では土坑2基、ピット17基を検出している。



第6図 第252次調査区配置図 (S=1/300)



第7図 第252次調査区位置図 (S=1/1500)



第8図 第252次調査区平面図・東壁断面図 (S=1/60)

【SK2349土坑】

調査区北東隅で検出した。北、東側が調査区外になるため、全体の形状、大きさ等は不明である。深さは約20cmである。遺物は出土していない。

【SK2350土坑】

調査区南西隅で検出した。南、西側が調査区外になるため、全体の形状、大きさ等は不明である。深さは約5cmである。遺物は出土していない。

【ピット】

調査区全域に分布し、16基を検出した。平面形もしくは梢円形を呈し、いずれも小規模である。柱痕跡が確認できたものはない。確認した堆積層は単層である。遺物は出土していない。

3.まとめ

前述したように今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の南側に位置し、平成23年度に調査が行われた第209次調査区の南側にある。第209次調査区からはピットや土坑が検出され、土坑からは土師器や瓦などが出土している。今回の調査では、土坑2基、ピット16基が検出されたが、官衙に関する遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。また全体的に遺構の分布も希薄で、第209次調査と同様に空閑地であったものと考えられる。



1. 遺構検出状況（南から）



2. 遺構完掘状況（南から）

写真図版 2 第252次調査区

III. 第254次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第254次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。調査は平成26年7月25日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成26年7月29日付けH26教生文第106-159号で回答)に基づき実施した。今回の調査地点は、郡山遺跡の南西側に位置し、方四町Ⅱ期官衙の大溝と外溝の中間地点に位置する(第2・10図)。

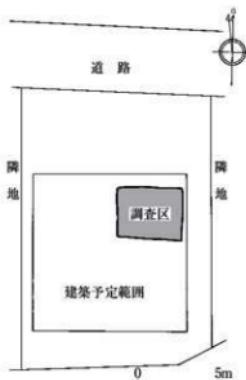
調査は、平成26年8月4日に着手した。調査区は、当初は東西4.0m×南北5.0mの調査区を設定したが、耕土置き場の関係から、調査範囲を東西4.0m×南北3.0mに縮小して調査を行った。重機により盛土を掘り下げたが、当初の想定よりも盛土が厚く堆積していたことから、地表面から約1.0m掘り下げた段階で東西約2.0m×南北約2.0mで段を設けて掘削を行い、基本層の確認に努めた。確認された基本層は第Ⅰ～Ⅳ層である。その後、調査区配置図(S=1/40)と、調査区断面図(S=1/20)を作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。同日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

2. 検出遺構と出土遺物

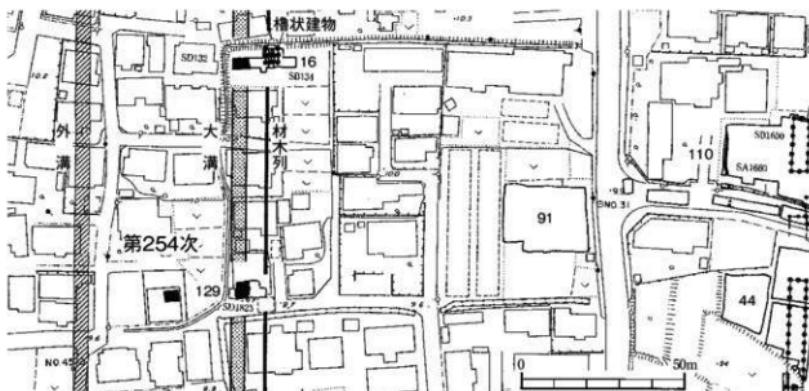
今回の調査では、遺構、遺物は検出されなかった。

3. まとめ

前述したように今回の調査地点は、郡山遺跡の南西側に位置し、方四町Ⅱ期官衙の大溝と外溝の中間地点に位置する。今回の調査地点では、盛土が厚く堆積していることが確認され、その下層から検出された基本層からは遺構、遺物は確認されなかった。確認された基本層のうち、第Ⅱ層は古代の遺構検出面で、第Ⅲ層が弥生時代の堆積層で

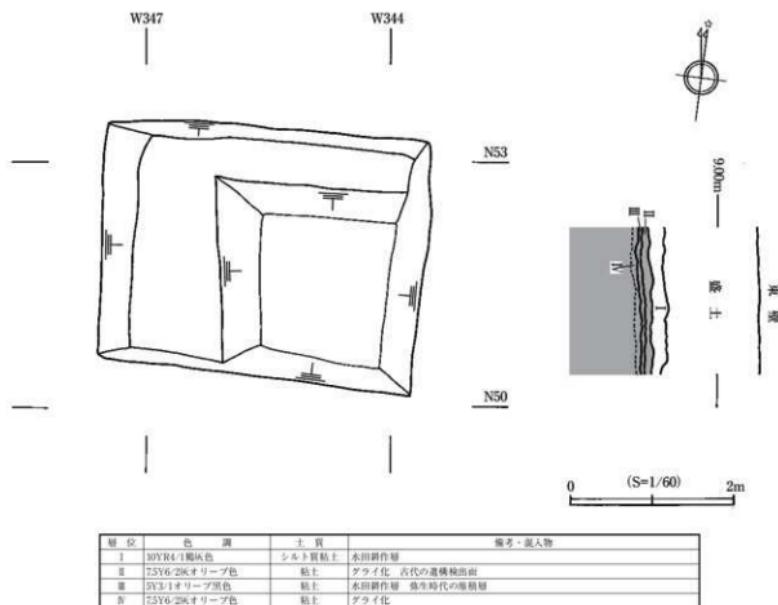


第9図 第254次調査区配置図
(S=1/300)



第10図 第254次調査区位置図 (S=1/1500)

あると考えられる。第Ⅱ層は厚さが約10cmしか確認されなかったことから、当調査区は古代の遺構検出面の上面が削平されているものと推定される。



第11図 第254次調査区平面図・東壁断面図 (S=1/60)



1. 遺構検出状況（西から）



2. 調査区東壁土層断面（西から）

写真団版3 第254次調査区

IV. 第255次発掘調査

1. 調査経過と調査方法

第255次調査は、個人住宅建築工事に伴う調査である。調査は平成26年11月7日付けで申請者より提出された「埋蔵文化財発掘の届出について」(平成26年11月13日付けH26教文第106-303号で回答)に基づき実施した。今回の調査地点は、郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の北東側に位置し、平成16年度に調査が行われた第163次調査区と、平成25年度に調査が行われた第245次調査区の東側に、平成21年度に調査された第199次調査区の南側に位置する(第2・13図)。

調査は、平成26年12月3日に着手した。調査は重機により盛土を掘り下げ、地表面から約0.7~1.2m付近まで掘り下げた段階で遺構検出面となる基本層第1層を検出した。また調査区西側の搅乱の下層からはⅠ層よりもやや暗い土色の基本層第Ⅱ層が検出された。その後、調査区配置図($S=1/40$)と、調査区断面図($S=1/20$)を作製した。記録写真はデジタルカメラを用いて撮影した。また調査の際に、郡山遺跡の座標(No.9)から、トランシットを用いて基準点の移設を行った。同日に埋め戻しを行い、調査を終了した。

2. 検出遺構と出土遺物

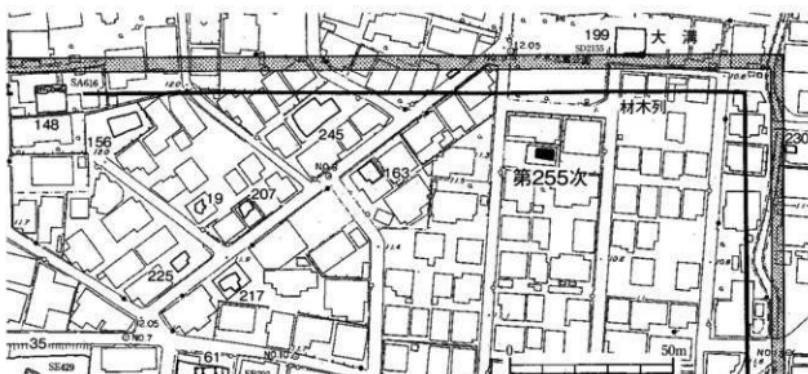
今回の調査では、遺構は検出されなかった。また小破片のため図示できなかったが、盛土中から土師器の壺の破片が1点出土している。

3. まとめ

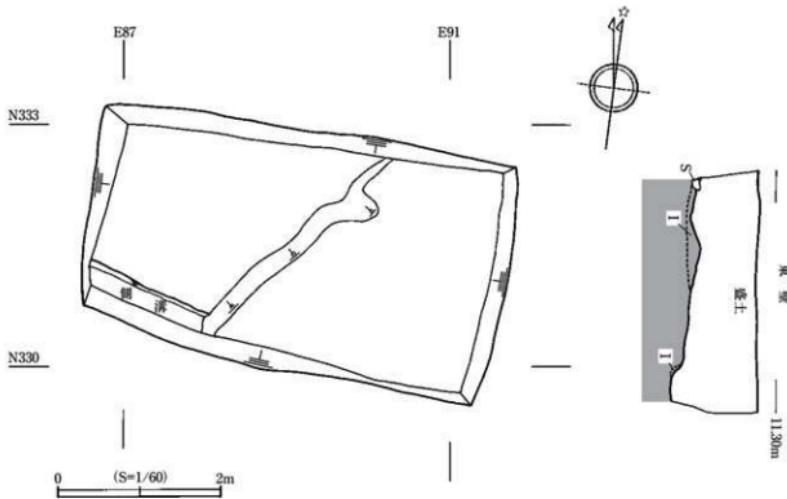
前述したように、第255次調査区は郡山遺跡の方四町Ⅱ期官衙の北東側に位置し、平成16年度に調査が行われた第163次調査区と、平成25年度に調査が行われた第245次調査区の東側に、平成21年度に調査された第199次調査区の南側に位置する。特に第245次調査区からはⅠ期官衙かそれ以前の時期の豊穴住居跡や河川跡と考えられる遺



第12図 第255次調査区配置図 ($S=1/300$)



第13図 第255次調査区位置図 ($S=1/1500$)



第14図 第255次調査区平面図・東壁断面図 (S=1/60)

構が多数検出され、須恵器を中心に遺物も数多く出土した。よって今回の調査区でも同様の遺構が検出されることが予想されたが、今回の調査地点は地表面から遺構検出面直上までレンガや砾、焼け土等などにより1m前後盛土されており、その下層から検出された基本層第I層は、検出されたレベルが周囲の調査区に比べ約40~100cm以上低かったことから、古代の遺構検出面の上面は削平されているものと推定される。



1. 遺構検出状況（西から）



2. 調査区東壁土層断面（西から）

写真団版 4 第255次調査区

第3章 調査成果の普及と関連活動

1. 主な広報・普及・協力活動

年月日	行事名称	担当	対象
2014. 5. 12~16	職場体験学習	石山・及川	仙台市立長町中学校2年生4名
5. 31	郡山遺跡見学	及川	健友歩こう会
6. 6	郡山遺跡見学	及川	JR東日本 「小さな旅＆小さな旅行プラン」
6. 24	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立東長町小学校6年生
6. 27	郡山遺跡見学	及川	東北学会
7. 1	郡山遺跡美化活動	整備活用係	仙台市立八本松小学校6年生
8. 20~22	職場体験学習	石山・及川	仙台市立沖野中学校2年生3名
10. 22~28	職場体験学習	石山・及川	仙台市立岩切中学校2年生5名
10. 25	高砂市民センターまつり (勾玉作りワークショップ)	石山・伊藤	一般市民(主催:高砂市民センターまつり実行委員会)
11. 5~7	職場体験学習	石山・及川	仙台市立袋原中学校2年生5名
11. 10~14	職場体験学習	石山・及川	仙台市立富沢中学校2年生3名
11. 10~14	職場体験学習	石山・及川	仙台市立柳生中学校2年生3名
11. 23	郡山遺跡および出土遺物見学	及川	とちぎ未来づくり財團 池田敏弘氏、他2名
11. 26~28	職場体験学習	石山・及川	仙台市立郡山中学校2年生5名
2015. 3. 5~8	被災ミュージアム再興事業に 係る展示会	整備活用係	一般市民(主催:仙台市文化財課)
2014. 4. 8~ (毎月8日)	薬師堂手づくり市	整備活用係	一般市民 (主催:薬師堂手づくり市実行委員会)



郡山遺跡美化活動



職場体験学習

報告書抄録

ふりがな	こおりやまいせき								
書名	郡山遺跡35								
副書名	平成26年度発掘調査概報　郡山遺跡								
巻次	35								
シリーズ名	仙台市文化財調査報告書								
シリーズ番号	第438集								
編著者名	長島栄一、及川謙作、石山智之								
編集機関	仙台市教育委員会（文化財課）								
所在地	〒980-0811 宮城県仙台市青葉区一番町4-1-25-3F TEL 022(214)8893								
発行年月日	2015年3月31日								
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所 在 地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因	
郡 山 遺 跡	宮城県 仙台市 太白区郡山	4100	1003	38° 12' 58"	140° 53' 41"	251次	2014.4.3	15.8m ²	個人住宅建築
						252次	2014.4.10	16.0m ²	個人住宅建築
						254次	2014.8.4	12.0m ²	個人住宅建築
						255次	2014.12.3	15.0m ²	個人住宅建築
						所 収 遺 跡 名	種別	主な時代	主な遺構
郡 山 遺 跡	官衙跡 寺院跡 集落跡	飛鳥～ 平安		土師器					

仙台市文化財調査報告書第438集

郡山遺跡 35

—平成26年度発掘調査概報—

2015年3月

発行 仙 台 市 教 育 委 員 会

仙台市青葉区一番町四丁目1-25

東二番丁スクエア3F

文化財課 TEL 022 (214) 8893

印 刷 毛 リ タ 印 刷 株 式 会 社

仙台市太白区郡山八丁目20-30

TEL 022 (246) 0105
